



発行：ストーンプランニング・いしの(有限会社 石野石材工業所) 〒680-0843 鳥取市南吉方1丁目110-2 ☎0120-148-788 2012年6月発行(季刊紙・年4回発行)

今度、何かお願いするときは「石野石材」と決めていました。

【鳥取市 清水様】

うちのお墓は古い形式でお骨を入れるところが小さくて困っていました。亡くなったおじいさんもお墓を直したいと言っていた為、今回新しくすることにしました。

石野石材さんには以前花立のことでお世話になったので、何か工事があれば石野と決めてお願いしました。営業の大倉さんは話しやすい方で本当に良かったです。

こちらの希望通りにもうえましたし、工期を守ってもらったのが良かったです。出来上がりを見た時には感激しました。

納骨所も広くなり、お墓も平坦な所に置くのではなく、新しく外柵を作ってもらったのでとても良くなりました。

親戚中に見せたいくらいです。

やっぱり石野石材さんだなぁと思いました。営業担当の名前を覚えましたが、今度は何かあったら「大倉さん」と言えます。

お客様インタビュー

親切に、こまめに打ち合わせを行い、その甲斐あって、満足のいくお墓ができました。

【米子市 塚田様】



塚田さま

古いお墓はあったんですが父が亡くなり一周忌までには新しくお墓を建てたいと思い今回建てることになりました。学生時代に「石野さん」と「石原さん」という面白い先輩がおられてお店の名前が石野さん、担当の方が石原さんで同じ苗字だったのでこれも何かの縁だと思いきや石野石材さんをお願いすることにしました。

こだわった点は基礎とお墓の色です。墓地が地面から竹が生えてくる場所だったので基礎をしっかりとしてもらい、お墓の色は部長さんの強いおすすめもあって黒っぽい石でお願いしました。

担当の石原さんは寒い中何度も家に来てもらい綿密な打ち合わせをして頂きました。その綿密な打ち合わせの甲斐あって、希望通りになって頂き自分達には似合わないくらい立派なお墓になり、完成後のお墓は近くから見ても遠くから見ても大変満足のいくものになりました。また、隣のお墓とのバランス、色合いも良かったです。本当に満足しています。

完成した塚田家のお墓



完成した清水家のお墓

清水さま



「信義」これが私の生き方であり、信じる道です。

開口一番「社長が口にされた言葉...」
「やっとなの順番が回ってきたなあ」でした。
すみません、第21号まで、お待たせしましたというところなんです。というところで、今回は弊社社長である平井義一です(緊張します！)

職人として、鳥取でイチバンになってやる！と思いがむしやりに働き出したのが30年前のこと。社会からの信用もなく、新しいことをしたくても、お金を借りるのもホントに困った時代で、いつか見てろよ！と思っただけです。

その後、中国事務所開設時にも、中国語もろくに喋れないながらも、何度も中国・厦門に行き、ようやく事業スタート。これが大きな転機だったかもしれないと思います。その時にも改めて実感したことが「信義」でした。人間、信じてくれること、信じ合えれば、どんなことでも達成できるのだとほんとの底からそう感じましたね...

今、リラクゼーションをはじめ、防溜事業、そして、仏壇事業へと展開し、社員数は36名となった。自分の神髄でもある「人間味」という部分において少し寂しい時もあるが、それを少しでも埋めれるように一生懸命がんばっています！ただ、様々な転機において、自分自身ほんとうに幸せだと思えるぐらい「出会い」があった。その人との出会い、ビジネスとの出会いを大切に、今後も社員のみならず、達成感や幸福感を味わっていきたいと思います。

まだまだこの先やりたいことややってみたいことは頭の中でいつも渦巻いており、それを考えると楽しくて仕方ないよ、時間がいくらあってもホントに足りない気がしますよ！

最後に、この季刊紙も多くの皆様を支えられ、第21号を迎えることができたことに心より感謝申し上げます。今後とも私たちが暖かく見守ってください。



若かりし頃の「平井社長」
2003年2月5日撮影(約10年前)



Yoshikazu HIRAI

平井義一
有限会社 石野石材工業所
代表取締役社長

◎家では、昨年結婚した妻に「ヨッチ」と呼ばれ、孫も2人おり、とてもアットホームな人間である。見大雑把に見えて実は、とても繊細で神経質でもある。いわゆる「男気」に関しては言うまでもなく「天下一品」だ。無論、初対面の人からすれば、「怖い」というイメージを持たれがちだが、とても人間味のある人間である。五十歳を目前に控え、健康面にも留意し!?1年に1回の「人間ドッグ」は欠かせず行っている。

ゴルフとお酒(カラオケを歌いながら必ず踊る)を「よなく愛する、四十九歳である。

Q&A

いよいよ、弊社の平井社長が季刊紙に初登場となりました。

普段、お話を聞いていますが、改めてインタビューとなると緊張しますね。社長の思いを聞くことができ、良い経験になりました。

また、季刊紙に使う、昔の写真を探している、私の知らない頃の石野石材の日常が沢山見れてとても楽しかったです。なかには「あの人...昔はこんなに痩せていたのね...」と思うような写真もたくさんありました(笑)

第22号からのいしのプレスは、少し様変わりして登場する予定です。